

平成26年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立羽咋工業高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
1 授業改善に一層取り組み、学力向上を図るとともに資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。	① 研究協議会やシラバスの内容を改善するとともに、新学習指導要領に沿った評価基準により、学校全体で授業改善に取り組む。	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	教職員対象に 7月にアンケート調査 A : 23% B : 49% C : 22% D : 6% 評価 : A・B合わせて72%	教職員対象アンケート結果は、A・B合わせて72%となり、中間評価では判定基準の75%をクリアできなかったが、今年度はICT機器活用率向上と併せた授業改善・互観授業を実施した結果、昨年の中間評価比2ポイントアップとなった。今年度も研究授業等が全て2学期以降に実施されることが目標に達しない理由の一つとしてあげられ、Dも6%あり常時の授業改善の取組が増加していない。今後は、2学期に実施される研究授業や互観授業・公開授業、ICT活用研修等を通して改善への取組を働きかけ、日々の授業改善への意識を高めていきたい。
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポート内容を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	生徒対象に 7月にアンケート調査 A : 37% B : 50% C : 12% D : 1% 評価 : A・B合わせて87%	生徒対象アンケート結果は、A・B合わせて87%となり、中間評価では判定基準の80%をクリアできた。昨年の中間評価比1ポイントの減少だが、授業課題・レポート・資格取得の他、朝・昼・夜の補習等の成果であると考えられる。今年度は、Aが7ポイント増加したが、他の調査項目の家庭学習時間が「ほとんどしなかった」が3ポイントしか改善しておらず、依然として40%以上の生徒が補習に学習を依存している。後期に実施される多くの資格検定に向けた学習を核にして、家庭での自発的な学習を習慣づけるよう働きかけ、学力向上にも繋げるよう努力していきたい。
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	2学期末での貸し出し図書数が A 450冊以上 B 325冊～449冊 C 250冊～324冊 D 250冊未満	7月に調査 7月末の貸出冊数は657冊 A評価(450冊)に対する達成率146%	7月末で貸し出し図書数657冊で、2学期末目標450冊に対し146%の達成状況である。昨年度貸し出し数321冊の2.0倍となっている。近年図書の貸し出し数が低調であったが、昨年から1年間で生徒1人1冊以上の貸し出しを目標に取り組んできて貸し出し図書数を321冊まで伸ばしたが、まだ読書嫌いの生徒がいる。「先生のお薦めの一冊」運動の影響もあり1、2年生で読書好きの生徒が多く見られ、始業開始前の朝や放課後、図書館にきて読書する姿が増えた。3年生は進路選択の時期のためか、貸し出し図書数が一番少ない学年である。進路決定後、読書を勧めていきたい。
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人～800人未満 C 550人～700人未満 D 550人未満	1月末の資格・検定試験合格者数を検証 7月末現在は221人 B評価(700人)に対する達成率32%	7月末現在の集計では、資格・検定試験合格者数は221人となり、判定基準であるB評価(700人以上)に対する現時点での達成率は32%であった。昨年より基準を50人増加したが、合格通知が届いていない資格試験もあるため7月末現在の合格者数は112人減少となっている。2学期以降に受験する資格・検定も多く、教務課とも連携した資格・検定試験の受験奨励および補習の充実等により目標を達成するよう努力したい。また、ジュニアマイスターの申請者増加に向けた取組と合わせて各工業科や担任に働きかけていきたい。
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	ジュニアマイスターおよび校内認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	7月の申請者数を検証 7月末現在は50人 B評価(50人)に対する達成率100%	7月末現在の集計では、認定者合計は50人(ゴールド19人、シルバー31人)となり、前期認定者数としては昨年度の32人より18人増加し、判定基準であるB評価に対する達成率は現時点で100%である。2学期は資格・検定の受験機会も多く、合格に向けて生徒への働きかけと補習の充実によりA評価を達成したい。また、校内顕彰である「ブロンズ」の周知を図り、1年次の申請も増加させ、学校全体で資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させるとともに、前年度同様ゴールド特別表彰がでるように難易度の高い資格・検定の受験も奨励していきたい。
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	生徒対象に 7月にアンケート調査 評価 : A (90%)	意識が高まった割合は、90%(3年93% 2年84% 1年93%)であり、判定基準をクリアしている。今年度の現2年生の就職希望者は、今年度並みで、約7割と推測される。後期には、2年生のインターンシップも控え、意識はより高まると予想される。進路に対して、時期に見合った指導を行い、意識を高めていくよう指導の充実を図っていきたくと考えている。1・2年生を対象とした「地元で働く卒業生と語る会」や「先輩(大学生)と語る会」も計画している。
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	学力テストや面接指導等により、実力がついたと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 就職の内定率が A 100%以上 B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	3年生を対象に 12月にアンケート調査 3年生を対象に 12月末に調査	(12月中に調査・集計を実施) (12月中に調査・集計を実施)
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 企業は日々改善に取り組んでおり、改善のためには「考える力」が重要である。高校で「考える力」を向上させてほしい。 資格取得や部活動で先生方は熱心に指導しており、これらの指導のおかげで、生徒達は自分の進むべき道を自分で見つけることができた。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> グループでの考察や話し合い等を通して考える力やコミュニケーション力を高め、疑問を持ったり学ぶ楽しさが理解できる授業を推進していきたい。 資格取得や部活動、生徒会活動の指導に学校全体で熱心に取り組んでいる。生徒達は、これらの活動を通してマナーや良識、コミュニケーション力を高めており、今後とも熱心に指導していく。 			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2. 生徒会活動や部活動を活性化させ、規範意識を高め、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取賞を獲得する。	高体連基準総合得点が A 65点以上 B 55点以上65点未満 C 45点以上55点未満 D 45点未満	県総体、県新人大会の成績結果を検証 評価: B (62点)	県総体の結果、現在の総得点は62点である。これは弓道部男子団体、ヨット部男女優勝、男子バレーボール、柔道部、剣道部のベスト8入賞によるものである。現在評価はB評価であるが、ラグビー部の加点による最終結果が待たれる。新人大会の結果を期待したい。
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に生徒が積極的に取り組む。	文化部の活動に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	各文化部対象に 7月に調査 A: 37% B: 49% C: 13% D: 1% 評価: A・B合わせて86%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて86%の生徒が満足していると回答した。昨年度から始めた文化部への調査であるが、満足できる評価である。しかし、文化部員全員から回答が得られずアンケートの取り方に課題を残した。 9月には羽工祭を控え、文化部の活動が増えるので、さらに生徒が満足するよう顧問や生徒に働きかけていきたい。
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 43% B: 49% C: 7% D: 1% 評価: A・B合わせて92%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて92%の生徒が満足していると回答した。昨年度の中間評価と比べて1ポイント減であったが、生徒会役員の全校生徒への働きかけや、日々の活動、各行事の内容が定着し充実している結果と考えられる。 9月には最大行事の羽工祭も控え、さらに全生徒が満足できるよう生徒会、生徒一人一人に働きかけていきたい。
	④ 倫理綱・道徳意識(モラル)に関する全校一斉朝読書・読み聞かせを行い、規範意識の向上を目指す。	学校の教育活動や朝読書・読み聞かせにより、ルールやマナーを守り、モラルが身についていると感じているか A 十分に身につけている。 B おおむね身につけている。 C あまり身につけていない。 D まったく身につけていない。	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 41% B: 55% C: 3% D: 1% 評価: A・B合わせて96%	7月調査の結果、A: 41%(145人)、B: 55%(194人)、C: 3%(12人)、D: 1%(4人)であった。「身につけている(A・B)」と答えた生徒は96%で、その内A:「十分に身につけている」と答えた生徒が41%もいることは、本校の規範意識が高いと読み取れる。今回から始まった取組であり、教職員・生徒の評判も良好である。後期も生徒が感化し、行動が変容するするようより工夫していきたい。
	⑤ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 16% B: 61% C: 20% D: 3% 評価: A・B合わせて77%	7月調査の結果、A・B合わせて77%という結果となった。判定基準の75%以上は達成できたが昨年度と比較すると2ポイント減少となった。2学期以降は残暑の厳しい季節から冬へと向かい、体調を崩しやすい時期となるので結果に満足することなく生徒の健康に対する意識が向上するよう努めたい。
3. 工業学習成果の提供や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境問題や社会貢献に対する意識を高める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、校外でも一日一善運動を推奨する。	一日一善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	生徒対象に 7月にアンケート調査 A: 17% B: 66% C: 15% D: 2% 評価: A・B合わせて83%	生徒対象のアンケート結果は、A・B合わせて83%で、昨年度の中間評価と比べ6ポイントの増である。しかし、校内での一日一善運動は定着してきているが、ボランティア活動への参加につながらない。2・3学期は特に校外でのボランティア参加への意識がさらに高くなるよう働きかけていきたい。
	② Webページの定期的更新間隔を短くし、学校全体の情報公開のスピードを上げる。また、教育活動や部活動のタイムリーな情報を発信し、更新状況等を分かりやすくする。	ホームページを更新した回数が A 60回以上 B 50回以上60回未満 C 40回以上50回未満 D 40回未満	各担当に 7月に調査 更新回数: 15回 B評価(50回)に対する達成率30%	1学期の各課・科や部活動等のホームページの更新回数が15回となり、判定基準であるB評価(50回以上)に対する現時点での達成率は30%である。Webページによる、よりタイムリーな情報発信を目的に今年度10%目標値を高めた。今後は更新頻度を増加させるため、教職員への継続的な情報発信を働きかけて目標達成に向けて努力していきたい。
	③ 環境保全のこれまでの取組を継続し、ゴミ分別等が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 環境保全(ゴミの分別・節水・節電等)に取り組んでいる割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	ISO委員により 7月に各教室を1週間調査(1日20点満点で評価) 18点以上の教室67% 評価: D 生徒対象に 7月にアンケート調査 評価: B (89%)	7月調査の結果、評価はDであった。今年度判定基準点数を3点上げたことと、各クラスISO委員に採点項目を具体化し、厳しく評価させたことがあげられる。しかし各クラスの平均が17.1点あり、次回の調査までに生徒に対してより高い意識を持たせるために、放送による呼びかけや、教室掲示などを行い目標達成に向けて努力していきたい。 7月調査の結果、取り組んでいる生徒の割合が89%であった。評価はBで、昨年度よりも3ポイント向上した。これは生徒が日頃から意識し行動してくれているということである。しかし、取り組んでいないと答えた生徒が11%いるので、後期に向けて、更に掲示物や昼食時の放送で啓発活動を行い、意識が高く持てるよう、学校全体で取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 「モラルが身につけている」と回答している生徒の割合が高いが、学校の指導により生徒がどのように変化したかについて先生方の評価も必要である。 交通マナーの指導を継続してほしい。 学校からの連絡書類を保護者に渡し忘れる生徒が非常に多い。これを改善しないと、学校や先生方、PTA等が一息懸命行っていることが保護者に伝わらない。資格試験のための部活動後の指導など、単に遅くまで学校に残していると誤解をしている保護者もいる。 保護者等に伝えることが大切であり、ホームページの更新も頻繁に行ってほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 教職員を対象にした学校評価アンケートに、生徒のモラルの向上についての項目を加えることを検討する。 自転車の安全乗車については、10月に全校生徒を対象にスタントマンによる自転車交通安全教室を実施する予定であり、交通安全指導は継続的に行っていく。 通知文を保護者へ確実に渡すように、指導を徹底していく。ホームページの更新は、年度当初に立てた更新目標を達成できるように頻度を高めていく。 			